

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 9 月 22 日現在

機関番号：12102

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26670971

研究課題名(和文) 出産による心的外傷後ストレス症状測定尺度日本語版の開発研究

研究課題名(英文) A development study for the Japanese scale to measure post-traumatic stress symptoms following birth

研究代表者

杉本 敬子 (SUGIMOTO, Keiko)

筑波大学・医学医療系・助教

研究者番号：50700548

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、出産による心的外傷後ストレス症状測定尺度日本語版を開発することを目的に、研究課題に関する人的ネットワークの構築、出産による心的外傷ストレス(Post-traumatic stress: PTS)の概念分析、日本女性に有効な尺度翻訳版の作成、翻訳版を使用した認知面接法の準備を行った。結果として、日本でも欧米と同様に、PTS症状を抱えながら生きている女性の健康問題は深刻であるものの、日本の産後ケアは、産後うつや幼児虐待に焦点化され、PTS症状の予防やケアが不足していることが浮き彫りとなった。今後、本研究にて得た人的ネットワークを用い認知面接法を実施し、その結果を公表する予定である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop a Japanese instrument to measure PTS symptoms following birth. The researcher initially developed a human resource network on the topic and conducted a conceptual analysis of PTS following birth. Concurrently, the researcher identified an instrument culturally appropriate for assessing PTS in Japanese women, translated in Japanese using committee approach, and prepared a cognitive interview process to test the instrument. In Japan, as in Western countries, postpartum care was focused chiefly on postpartum depression and child abuse. However, the health problems of women living with the post-traumatic stress (PTS) symptoms following birth were serious and there was a distinct lack of preventive care for this condition. The next step is to conduct the cognitive interviewing and publish the results.

研究分野：ウィメンズヘルス

キーワード：post-traumatic stress birth trauma scale development Japanese translation 心的外傷後ストレス パーストラウマ 尺度開発 日本語翻訳

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 産後うつ症状と出産による心的外傷後ストレス症状

日本では、約 13% の女性が顕著な産後うつ症状を有すると報告され、産後うつ症状は、国の健康優先課題の一つとして取り組まれている。産後うつ症状は、産後の女性自身の健康を脅かすだけでなく、早期の母子関係、その後の子供の社会的、情緒的、行動的発達において、悪影響を及ぼすことが、国内外の多くの先行研究により示唆されている。

一方、出産による心的外傷後ストレス症状 ( posttraumatic stress symptomatology: PTSS ) は、産後うつ症状の重要な先行要因として、近年、欧米の研究者らにより注目されている。心的外傷後ストレス障害の診断基準すべてを満たす褥婦は、全体の約 3 % とごくわずかであるも、褥婦の約 3 人に 1 人が出産による PTSS を有することが国内外の調査で報告されており、PTSS だけでなく、産後うつ症状の予防的観点からも、PTSS が顕著である女性を早期に発見し、適切なケアを提供することは重要である。

### (2) PTSS 測定尺度日本語版開発の意義

産後うつ症状を測定する尺度は、欧米で開発され日本語にも翻訳され、多くの研究や実践で使用されている反面、PTSS を測定する尺度の日本語版は開発されていない。今回の研究において、PTSS の日本語版測定尺度が作成されると、強い関連性が報告されている PTSS と産後うつ症状の因果関係の実証や、両因子を包含するケアモデルの検証の研究を行うことができ、産褥期の女性に対するメンタルヘルスケアへの予防的介入法の開発に応用ができる。また、グローバル化が進む現代において、異なる言語を母国語とする女性間の異文化間比較研究が可能となり、在日外国人女性との比較研究や国際共同研究プロジェクトに使用できる点で意義は大きい。

## 2. 研究の目的

日本女性の産後に生じる精神障害症状 (PTSS や産後うつ症状など) の予防や軽減に有効な介入法の開発を長期目的に見据え、出産による PTSS 測定尺度日本語版を開発することを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究は、女性の心の中のトラウマ体験に関する研究であり、研究対象者に対する十分な倫理的配慮が必要である。そのため、以下の 4 項目を実施しながら、研究の準備を入念に実施した。

### (1) 研究課題に関する人的ネットワークの構築

国内外の学会やセミナーに参加し、研究課題に取り組む国内外の研究者や実践家と、研究課題について議論し、研究計画に必要な情報を得た。また実際に PTSS を有する女性のピアサポートグループとの交流を継続的に行ない、対象者へのアプローチ方法など実施に必要な倫理的配慮について示唆を得た。

### (2) 出産による心的外傷ストレス (Posttraumatic stress: PTS) の概念分析

国内外の研究や実践において、複数の PTSS に類似した用語と概念の使用には一貫性がなく、尺度開発研究の前に、PTSS を有する女性が経験する現象としての PTS の概念について整理する必要があると判断した。そこで Rogers の方法を用い、出産による PTS の概念分析を行った。

### (3) 日本女性の背景に適した PTS 測定尺度の特定と翻訳版の作成

国内外の研究や実践で用いられている、複数の PTSS 測定尺度を比較し検討した結果、Self-Assessment of Maternal Distress After a Difficult Birth (Simkin & Klaus, 2011) を特定し、コミッティーアプローチを用いて翻訳した。

#### (4) 尺度翻訳版を使用した認知面接法のトレーニング

特定した尺度のオリジナル(英語版)の開発者たちが主催した、PTSSを有する女性のアセスメントとケアに関するセミナーを受講し、本研究の翻訳尺度を使用する認知面接法についてトレーニングを受けた。

### 4. 研究成果

#### (1) 研究課題に関する人的ネットワークの構築

##### 研究者との交流

日本では、出産以外のイベント(天災など)によるPTSSを測定する尺度を、出産によるPTSSに利用した研究はあるものの、現時点で産後女性のメンタルヘルスケアへの応用には至っていないことが浮き彫りとなった。一方欧米では、出産特有の心的外傷後ストレス症状を測定する尺度を開発し、産後女性のメンタルヘルスへの地域における学際的チームケアの介入研究や実践に応用されていた。

##### ピアサポートグループとの交流

研究代表者は、ピアサポートグループが企画する研究テーマに関する講演会の講師を複数務めるなど事業に参画し、女性たちの生の声に傾聴する機会をもち交流を図った。その結果、PTSSは、出産のみのイベントに起因するものではなく、妊娠以前に経験したネガティブなイベントが産後によるPTSSにも影響を与える可能性があること、PTSSを有していることを自覚していない(心に蓋をしている)女性が存在するということ、さらにPTSSは一生に亘ってその女性や家族に影響を与える可能性があるという示唆を得た。

このように、研究課題に関する人的ネットワークの構築によって、文献検討で得られた知識を確認することができ、この後実施する翻訳版尺度の認知面接の際に配慮すべき倫理的事項を明確にするに至った。

#### (2) 出産による心的外傷ストレス

#### (Posttraumatic stress: PTS)の概念分析

##### 出産によるPTS/PTSDとパーストラウマ

本研究におけるPTSとは、アメリカ精神医学会によるDSM-IVの心的外傷後ストレス障害(Posttraumatic stress disorder: PTSD)の診断基準を完全には満たさないが、診断基準に明記される症状群の一部を満たし、PTSDと診断された女性と同様に、なんらかのケアが必要な現象をさしている。

欧米において、PTSはPTSDに先行する現象として使用されてきたが、米国のPTSSに関する研究者(Beck, 2004)がbirth traumaという用語を論文のタイトルに使用して以来、一般的にはPTSよりもパーストラウマを用いる傾向に移行してきている。一方、日本では、出産によるPTSやPTSDという概念自体に、一般には馴染みが薄く、近年マスメディアによって、パーストラウマという概念が取り上げられたのを契機に、出産によるPTSDないしはPTSが社会的に認知されるようになり、出産によるPTSとパーストラウマが互換的に用いられるようになってきている。

このように概念分析の結果、欧米でも日本でも、女性たちが使用する用語としては、PTSやPTSDよりもパーストラウマの方が使用しやすいことが理解できた。本研究では、PTSDの鑑別治療ではなく、予防的な観点から女性の精神的苦痛の予防や軽減へのケアの開発に役立つ尺度開発を目的としているため、女性への安全性確保のためにも、本研究で開発する日本語版尺度にはPTSという用語を用いないこととした。

##### PTSの先行因子と帰結因子

文献検討の結果、出産によるPTSの先行因子と帰結因子には、下記の項目が挙げられた。

##### <先行因子>

- 死産、新生児死亡、胎児仮死
- 先天性奇形・未熟児などの児の異常
- 緊急帝王切開、鉗子/吸引分娩
- 不適切な医療者によるケア

- 会陰切開への恐怖
- 不十分な陣痛緩和
- 遷延分娩/急速分娩
- 産後出血/胎盤用手剥離術

<帰結因子>

- PTSD
- 産後うつ
- 人間関係の障害（母子・夫婦 など）

（３）日本女性の背景にあった尺度の特定と翻訳版の作成

欧米で開発され、PTSSを有する女性のスクリーニングに使用されている複数の尺度の中で、上記(2)の概念分析の結果で得られたことを配慮し、Self-Assessment of Maternal Distress After a Difficult Birth (Simkin & Klaus, 2011) を、PTSSを有する日本女性への使用に最も適している尺度として特定した。尺度には、PTSDの診断基準となる症状の項目は含んでいるものの、他の測定尺度に見られるような、PTS、PTSD、トラウマなどのネガティブな経験を想起させる可能性がある表現は使用せずに、柔らかい表現で作成されている。日本人女性は、自己のネガティブ感情を表出することが得意ではないという報告もあり、PTSやトラウマのようなネガティブ用語を用いていない尺度を用いることが産後の日本人女性には適切であると判断した。

尺度の翻訳方法として、内容妥当性を高めるため、コミッティーアプローチを用いた。コミッティーメンバーは、研究代表者、コミッティーメンバーに卓越した研究者、出産のケアに従事する一般の女性で構成した。翻訳は別々に行った後、コミッティーメンバーが集まり、産後の日本女性に、センシティブでかつ、不快な感情を与えない表現になるように議論をした。議論によって解決できない項目は、研究代表者が、尺度のオリジナル版の開発者に意見を求め、翻訳版を作成した。

（４）翻訳版を使用した認知面接法のトレーニング

翻訳版の認知面接法による妥当性の検証研究の準備として、本研究の翻訳尺度を使用する認知面接法について、尺度のオリジナル（英語版）の開発者から直接トレーニングを受けた。本研究で翻訳した尺度の開発者たちは、PTSSを有する女性たちへのケアのエキスパートであり、強いPTSSを有しがちな性的虐待のサバイバーたちに対し、心のケア（心身のリラックスを促すケア）を提供する際に、この尺度（自己アセスメント表）を用いている。尺度を使用する際に、面接への参加者がリラックスして面接に応じられるよう、また苦痛を生じた際には、症状を緩和できるようなケアについてもトレーニングを受けた。

本研究により、日本でも欧米の報告と同様に、PTSSを有し心にトラウマを抱えながら生きている女性の健康問題は深刻であるものの、日本の産後ケアは、産後うつや幼児虐待に焦点化され、PTSSの予防やケアが不足していることが浮き彫りとなった。今後、本研究にて得た人的ネットワークを用い、研究協力者の心のケアとなる認知面接法を実施し、日本語版尺度の内容妥当性（表面妥当性）を質的に検討する研究を実施し、その結果を公表する予定である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

杉本 敬子 (SUGIMOTO、Keiko)

筑波大学・医学医療系・助教

研究者番号：50700548

### (2)研究分担者

( )

研究者番号：

### (3)連携研究者

( )

研究者番号：

## (4)研究協力者

( )